# 第3回 資料の収集(1)

# 文献検索(図書館の利用)

実際に図書館へ行って、図書館の利用について説明を受けます。

- 兵庫大学図書館: http://media.hyogo-dai.ac.jp/lib/
- 兵庫大学 OPAC (オンライン蔵書目録): http://harmonis.lib.hyogo-dai.ac.jp/mylimedio/

#### 大学図書館のサービスの利用

- 資料の貸出
- レファレンス・サービス(「調べもの、探しもの、お手伝いします」)
- コピー・サービス
- 他大学の図書館などの利用
  - 閲覧:他大学の図書館を利用できるように「閲覧依頼書」を発行
  - 複写:文献のコピーを取り寄せる
  - 借用: 文献そのものを借りる
- 購入リクエスト

# 図書館の資料

### 資料の種類

- 参考図書(レファレンス・ブック):学問全般について知りたい場合に役立つ
  - 辞書、事典、百科事典、年間、統計資料、白書、文献目録など
- 新聞: 比較的新鮮な情報を入手できるが、情報が断片的な場合がある
  - ○一般紙(全国紙:毎日、読売、朝日、産経、日本経済、地方紙:神戸新聞など)
  - スポーツ紙・レジャー紙(日刊スポーツ、サンケイスポーツなど)、専門誌、業界紙、機関紙、広報紙
- 図書 / 単行本:特定分野の知識が体系的にまとまっているが、できあがるのに時間がかかる
  - ○文庫本、新書、専門書など
    - ■一次資料(オリジナルの資料)と二次資料(一次資料に基づ〈資料;年鑑、索引、蔵書目録も含む)
- ●雑誌、逐次刊行物(定期刊行物):特定分野の現状や新しい話題について、詳しい情報が得られて、内容もコンパクト
  - ○一般雑誌(月刊誌、週刊誌など)
  - 学術雑誌 (学術雑誌、論文誌、講演論文集、学術定期刊行物など)
- インターネット上の情報:情報の量は多いが、書き換えや削除されることがあるので、再検証しにくい
  - ○マスコミのサイト(新聞やテレビなど報道機関)
  - 行政(政府や自治体)、企業・各種団体のサイト
  - ○フリーの百科事典(Wikipediaなど)、まとめサイト、個人のサイト(日記、ブログなど)

#### 図書館での資料の分類

- 日本十進分類法(NDC: Nippon Decimal Classification)
  - ○資料の背に張られたシールに書かれている番号
  - 資料のテーマ(主題、分野)ごとに分かれている (例)芸術 スポーツ、体育 球技: 「783」

### 参考文献の利用

#### 引用と剽窃(ひょうせつ)

レポートなどの自分の文章に、他の人の書いた文章を取り入れることを「**引用**」といいます。引用のしかたには、あるきまった作法があります(後日説明します)。

他の人の文章を自分の意見のように書くことは、「剽窃(ひょうせつ)」、つまり盗作やカンニング扱いとなります。自 分の文章が「主」、他の人の文章が「従」の関係となるように、引用は必要最低限にとどめることが求められます。

#### 参考文献リストの書き方

引用したり参考にした資料・文献があれば、その出典(情報の出所)を「**参考文献**」として書きだしておきます。リストとしてまとめておきましょう。

参考文献として示すのに必要な情報は、書籍の場合は奥付(巻末の著者・出版社などの情報が書かれた部分)に書かれています。

- 1. 単行本(単著、共著)
  - ○書式: 著者名 (出版年) 書名 出版社名 .
    - 例:安田雪 (2001) 実践ネットワーク分析 新曜社.
    - ■例: 増田直紀・今野紀雄 (2005) 複雑ネットワークの科学 産業図書.
- 2. 単行本(編著)
  - ○書式: 編著者 (出版年) 書名 出版社名 .
    - ■例:佐藤嘉倫・平松闊編(2005)ネットワーク・ダイナミクス 勁草書房.

なお、参考文献のリストを書くときには、次のことに注意してください。

- 複数の参考文献を書くときは、著者名の名字のアルファベット順に並べる
- ●同じ著者で、同じ発行年(出版年)の文献を挙げる場合は、発行年の後に a、bとアルファベットを追記しておく
- ●参考文献の示し方には、分野や年代によって書き方の違いがあること(ただし、何を書くかはだいたい同じ)

### 参考文献

- 学習技術研究会編著「知へのステップ 第4版」、〈ろしお出版 (2015.04)
- 専修大学出版企画委員会編「知のツールボックス」、専修大学出版局 (2006.04).
- 佐藤望編著, 湯川武, 横山千晶, 近藤明彦「アカデミック·スキルズ」, 慶応義塾大学出版会 (2006.10).
- ●科学技術振興機構「参考文献の役割と書き方科学技術情報流通技術基準 (SIST) の活用」, http://sti.jst.go.jp/sist/pdf/SIST\_booklet2011.pdf (参照 2013-07-01).
- 南田勝也·矢田部圭介·山下玲子「ゼミで学ぶスタディスキル」, 北樹出版 (2011.04)

### 課題

自分が興味のあるテーマについて、キーワードを複数考えて、そのキーワードを使って、大学の図書館の文献検索をしてください。

検索結果から読んでみたいと思う本を5冊選んで、ワークシートに参考文献リストとしてまとめてください。

## 次回(5月7日):「資料の収集(2)」

- パソコンやインターネットを活用した情報収集
- アイデアを引き出してまとめる(発想法)